

《労協・菜の花プロジェクト》への期待の言葉

菜の花復活で日本再生へ

衆議院議員 前農林水産副大臣 篠原 孝

2011年は、日本の岐路ともなる年でした。誤った経済効率追求や行き過ぎた自由貿易は環境や安全を損ないます。食料とエネルギーは地産地消が基本です。

菜の花は日本の景観の維持、菜種油は食料自給率の向上、BDFは再生可能エネルギーと、理想的な作物です。2011年から、菜種は農業者戸別所得補償の対象作物となっています。菜の花プロジェクトの推進の一助となり、日本に菜の花が復活することを願っています。



「発酵の里・こうざき」

菜の花プロジェクトで町おこし

千葉県香取郡神崎町 町長 石橋 輝一

神崎町は、古から酒・醤油の醸造所が多くあり、江戸時代には隣接する佐原とともに江戸の台所として栄えた町であります。町では“発酵の里”を提唱し、千葉県一小さな町で・関東一の蔵祭りを開催しており、町人口の5倍にあたる3万人以上の観光客で賑わいます。

また、一昨年に新エネルギービジョン策定をし、環境・エコの町・公害のない町と利根川を活かした町づくりに取り組んでいます。そして、ワーカーズコープさんと協働で利根川河川敷に菜の花を植栽し、観光と新エネルギー(BDF)を推進して行きます。また、現在問題視されている放射能についても、菜の花は吸収し低減されると言われています。

河川敷への菜の花栽培については、平成24年度中に圏央道が開通予定で、更には平成26年には神崎町道の駅がオープンの予定となっています。これらに合わせ約2キロメートルに亘って利根川河川敷に菜の花を植えて、日本一の真っ黄色な菜の花畠をつくり、地域の憩いの名所として、更には菜の花のBDF燃料を公用車等に利用するなどCO₂削減、環境等新たな取り組みを行ってまいります。



いよいよ

「菜の花プロジェクトの出番です」

NPO 法人菜の花プロジェクトネットワーク
代表 藤井 純子



滋賀県の小さな町愛東からはじまった「菜の花プロジェクト」は、大きな共感を以て全国各地に広がりを見せて来ています。人間生存のベースともいえる“食とエネルギーの地域自立”をめざしている事と、何よりも、菜の花のあの明るさと元気色の力だと思います。

3・11は、一時も早く、化石燃料、原発にたよりきつてきたこれまでの社会のありようへの転換を迫る重要な警告です。

全国各地のワーカーズコープの皆さまと菜の花プロジェクトのネットワークを更に展開し、未来世代の社会に希望を！と願っています。



協同労働による「仕事おこし・まちづくり」の協同組合

日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会

〒171-0014 東京都豊島区池袋 3-1-2 光文社ビル 6F
Tel. 03-6907-8040 Fax. 03-6907-8041

「菜の花プロジェクト」 みやぎ生協も応援します。

みやぎ生活協同組合 理事長 齋藤 昭子



貴連合会が2011年7月に完成したBDFプラントは、菜の花の油やみやぎ生協の事業から排出される廃食用油を回収し、バイオ燃料をつくり、それをみやぎ生協の配達車両等で使用するというものです。この一連の取組みは、軽油からバイオ燃料へ切り替えでCO₂の排出が「0」となることで地球温暖化防止に資するものとなります。また、廃食用油を再資源化物として活用することで循環型社会の構築にもなる環境保全活動もあります。さらには菜の花を活用することで遊休農地の活用や新たな事業活動による地域の雇用が生まれるなど、地域に密着したすばらしい取組みです。

みやぎ生協も皆さんと一緒にこの取組みを成功させたいと思います。

Food Energy Care

《食料・エネルギー・ケア》の自給自足を指向する地域づくり



菜の花が世界を救う!! —夢をたくして—

ともに地域にあって
生活と地域のためによい仕事をし
社会の明日の希望のために——。
その決意、気持ちを込めて
ナノハナをみんなでうえる。

